

実験ファイナンス研究の最前線

花 木 伸 行

目 次

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1. はじめに | 3. 株価予想実験 |
| 2. 仕組金融商品への投資実験 | 4. おわりに |

本稿では、近年急速に発展している金融の研究に実験手法を用いる「実験ファイナンス」の最新の研究の中から、筆者が証券アナリスト協会の協力の下、CMAの方々も対象に行った「仕組金融商品への投資実験」と「株価予測実験」を結果とともに紹介する。

1. はじめに

経済学は、長らく、天文学と同様、実験のできない学問と考えられてきた。しかし、20世紀の後半から実験経済学が発展するにつれ、この考え方は大きく変わった。21世紀になると、2002年にVernon Smith、2009年にElinor Ostrom、2012年にAlvin Roth、そして、2019年にはAbhijit Banerjee、Esther Duflo、Michael Kremerといった実験を用いた研究を推進してきた多くの研究者がノーベル経済学賞を受賞し、今日では、実験は経済学の主要な研究手法の一つとなっている。

本稿では、その中でも近年急速に発展している実験ファイナンスの最新の研究の中から、筆者が証券アナリスト協会の協力の下、CMAも対象に行った実験結果を紹介する。実験ファイナンスとは、実験経済学の手法を用いて、金融に関する研究を進める学問分野である。

読者の中には、行動経済学や行動ファイナンスの研究に触れたことがある方もいるだろう。一方で、実験経済学や実験ファイナンスの研究に触れたことがある方は少ないのではなかろうか？ そもそも実験経済学・ファイナンスと行動経済学・ファイナンスは何が違うのか？と思われる方もいるかもしれない。実際、行動経済学の書籍では、



花木 伸行 (はなき のぶゆき)

大阪大学社会経済研究所教授。2003年米国コロンビア大学大学院経済学博士課程修了(Ph. D.)。コロンビア大学Earth Instituteポスドク研究員、筑波大学人文社会科学研究所専任講師、フランス、エクス・マルセイユ大学経済経営学部教授、フランス、ニース・ソフィアアンティポリス大学経済経営学部教授を経て、2019年9月より現職。専門は実験・行動経済学。*Economic Journal*、*Management Science*、*European Economic Review*、*Games and Economic Behavior*など国際的な専門誌に論文を多数発表。